

概要

発話内行為の婉曲表現： 語用論的

序論

言語は文化の一部であるため、言語は文化から分離することはできない。言語は異なる文化に特定の特性があるためである。例えば、日本人が使用する言語は会話の目的を言うために間接的に話すこともある。このことは婉曲表現として知られている。新村(1991: 298)によると、婉曲表現は表現などの遠まわしなさま、老骨にならないようにいうさま。

婉曲表現はタブー言語と感じられる代替としても使用できます。小川(1992: 208)によると、はっきり直接的に表現するのを避けて遠まわしに言う表現である。物事を断定するときとか命令するということとか直截的な意を表したい場合には、特にこの傾向が強いである。例えば命令の表現を避けて「読んでください」のように以来の表現を用いる。あるいは、加入や勧告の表現を用いて「やめましょう」、「行ったほうがいい」などという。またははっきりした事実であっても断定を避けて、水量表現を用い、「らしい、ようだ、みたいだ」という。あるいは、文末に「と思う、と考える、が、けど」などをつけてぼかす。下人、理由を出棺的な立場から述べる時の「から」を避けて「ので」を用いて知らせる。「わかりません」を「わかりかねます」というなど様々の言い方が用いられている。

それで、大辞林(1989: 277)によると、婉曲は(1)遠回しに、それとなく表現するさま。(2)文法で、事柄の実現が可能であった予想され

たりすることを、はっきり断定しないで水量の形で和らげて表現する言い方。日本語の婉曲表現は伝えられた表現の中核で、話者は間接的に表現する表現であることが理解できる。

次に、婉曲表現は言語行為に関連付けることができます。Yule (1996:47) によると、言語行為は自分を表現しようとするとき、人々は文法構造と単語を含む発話を生成するだけでなく、それらの発話を介してアクションを実行する。言語行為理論は、発話が話されたときの行動は、三つの異なるタイプ、すなわち発話行為、発話内行為、発話媒介行為で分析できると述べている。

Yule (1996: 48) によると、最初に発話行為である意味論的行為があり、意味のある言語表現を生み出す。また、イリアンチニ (2016: 44) の学位論文の中に小泉によると、発話内行為はある発話による陳述、約束、命令、依頼などを行う行為である。この発話行為は発話のコミュニケーションの強調、または発話内行為の強調によって表示される。そして、イリアンチニ (2016: 50) の学位論文の中に小泉によると、ある発話を通して聞き手にある影響を及ぼす行為である。

それで、分析されるのは、会話に見られる発話内行為の婉曲表現です。そのため、語用論的な研究がこれを分析するために使用される。

本論

この論文では、15 データが集められ、データは、日本語映画における日本語の発話行為の形での婉曲表現と、日本語映画での日本語を話す発話行為の形式での婉曲表現に基づいて分析される。

日本語の発話行為の形での婉曲表現は：

1. 直接発話行為の婉曲表現

実はね、ちょっとお願い聞いたほしいの。

発話では、推移語動詞「お願い聞く」を使用し、「ちょっと」を使用して本田に話される文を洗練することにより、ミホが直接話した発話の発話行為に婉曲表現がある。

2. 間接発話行為の婉曲表現

購買にすごく並んでだから、お昼まだなのよ。

ミホは友人の一人が彼の願いを叶えることを望んでいることを暗示しており、文は情報を含む文になり、ミホは並ばないように間接的に命令し、購買で誰か彼に食べ物を買うように頼む。

日本語の発話行為の形式での婉曲表現は：

1. 断り表現

いや、ちよ。 ちょっと忙しいんだ。

この発話では、本田が動詞「忙しい」を使用し、条件が忙しいということを意味する「感動詞」「ん」を使用して拒絶する形で、発言の発話行為に婉曲表現がある。その後、副詞には、「小さな」心配の表情と断続的なトーンが与えられ、間接的な拒絶になる。

2. 勧誘表現

オイ、遊戯、帰りどっかよって行かないが？

この発話では、副詞「どこか」を使用した間接的な勧誘文の形で間接発話行為の婉曲表現があり、次にそれはどっかである非公式の文にブレ

ンドされ、次に「行く」は「行かなな」であるイクの否定に変換されます。その後、「行かない」の背後にある上司「が」を与えて、行かないがである質問になる。

3. 依頼表現

学校まで横断歩道 いっぱいあるの。

この発話では、ミキが泣いて語った間接発話行為の婉曲表現を依頼表現がある。ミキの表現には助けが必要であるという意図があり、ミキは間接的に彼女が学校に連れて行くためにカグヤに助けを求めていると言った。

4. 感謝表現

本田くんだね、ミホの代わりにずっと並んでくれて助かった。

この発話では、間接的に感謝を表すという形での発話的スピーチ行為に婉曲表現がある。非推移的な動詞「並ぶ」は「て形」に「～を使用して」に変更され、その後、「て形」を「くれて」に変更される他動詞「くれる」が追加される。過去の形「なる」助かった」は「ありがとうございます」の代名詞として機能する。

結論

婉曲表現は、会話の主要部分で間接的に話す日本文化に基づく発話内行為に関連している可能性があり、以下のような発話内行為における婉曲表現の形式と種類に基づいて、発話における参加者の役割を見ることが結論付けることもできる。発言者としての発言者の役割と活動の実行者としての聴取者の役割が、活動の実行者としての発言者の役割と、発言者

としての聴取者の役割は、発語発話行為の婉曲表現ではめったに起こらない。

そして、筆者が分析した婉曲表現の意味は回転の意味であるため、直接発話行為の形の婉曲表現はめったに見つからない。直接発話行為の演説と関連している場合、それは直接または間接の発言言語の演劇の間で漠然と見られる。



DAFTAR ISI

HALAMAN PENGESAHAN	i
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	ii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI	iii
KATA PENGANTAR	iv
DAFTAR ISI	vi
BAB I PENDAHULUAN	1
1.1 Latar Belakang Masalah	1
1.2 Rumusan Masalah	7
1.3 Tujuan Penelitian	7
1.4 Metode dan Teknik Penelitian	8
1.5 Organisasi Penulisan	9
BAB II LANDASAN TEORI	11
2.1 Pragmatik	11
2.2 Eufemisme	14
2.3 Tindak Tutar	16
2.3.1 Lokusi	17
2.3.2 Ilokusi	18
2.3.2.1 Bentuk Tindak Tutar Ilokusi	19
a. Tindak Tutar Ilokusi Langsung	19
b. Tindak Tutar Ilokusi Tidak Langsung	19
2.3.2.2 Jenis Tindak Tutar Ilokusi	20
1. Ilokusi Konstatif	21
a. Asertif	21
b. Retraktif	22
2. Ilokusi Direktif	23
a. <i>Requestives</i>	23
b. <i>Requirements</i>	23
c. <i>Prohibitives</i>	24

3. Ilokusi <i>Acknowledgments</i>	24
2.3.3 Perlokusi	25
BAB III EUFEMISME DALAM TINDAK TUTUR ILOKUSI BAHASA	
JEPANG	27
3.1 Ekspresi Eufemisme Dalam Bentuk Tindak Tutur Ilokusi	27
3.1.1 Eufemisme Dalam Tindak Tutur Ilokusi Langsung	28
3.1.2 Eufemisme Dalam Tindak Tutur Ilokusi Tidak Langsung	32
3.2 Ekspresi Eufemisme Dalam Jenis Tindak Tutur Ilokusi	43
3.2.1 Ilokusi Konstatif	43
3.2.1.1 <i>Kotowari hyougen</i> 断り表現	44
3.2.2 Ilokusi Direktif	46
3.2.2.1 <i>Kanyuu hyougen</i> 勧誘表現	46
3.2.2.2 <i>Irai hyougen</i> 依頼表現	47
3.2.3 Ilokusi <i>Acknowledgments</i>	50
3.2.3.1 <i>Kansha hyougen</i> 感謝表現	50
BAB IV SIMPULAN	53
DAFTAR PUSTAKA	56
SINOPSIS	viii
LAMPIRAN	xiii
RIWAYAT HIDUP	xxix